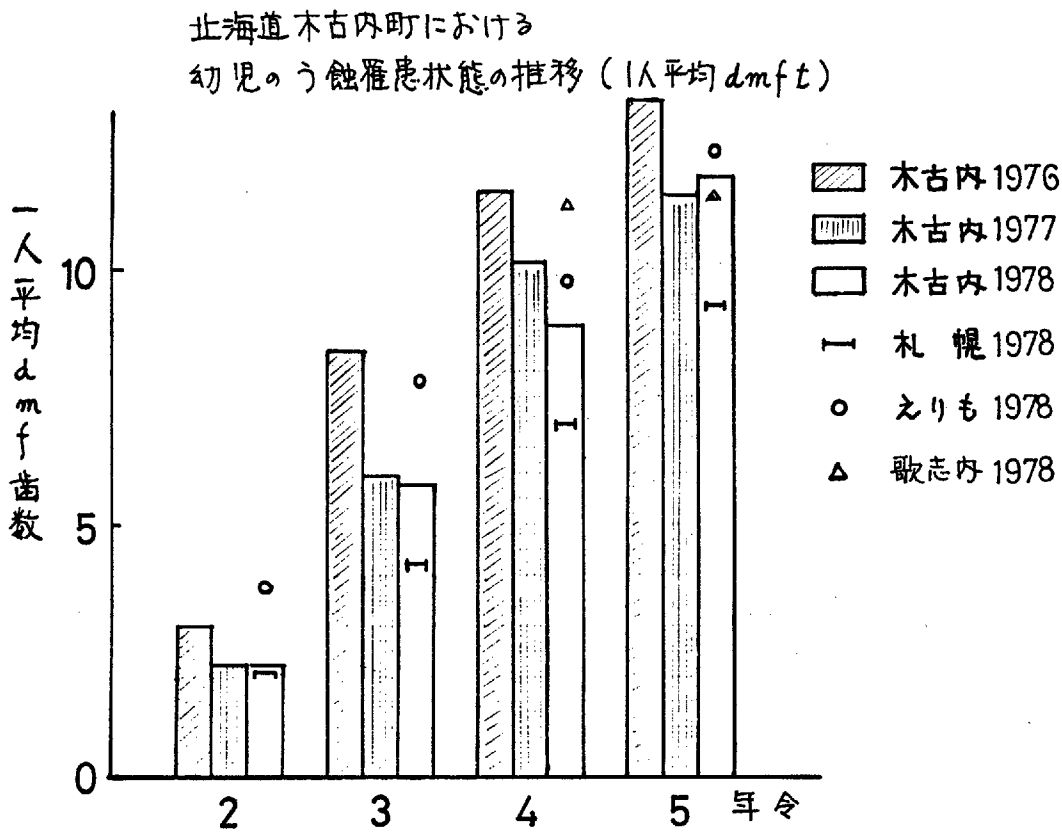


## 5. 幼児の歯科保健管理方法についての予備的研究

飯塚　喜一
矢崎　　武

幼児に限らず，歯科保健管理，とくにう蝕についての管理体系を整備することは大切なことであるが，それには，検診時点におけるう蝕罹患性の予測をある程度の確度で行えることは大変役立つものである。

このため，1才6カ月児歯科健診においては，歯垢付着状態と保育環境との2点からそれを推定しようとしている。

しかし，この場合もつとも基礎となるものは，その時点におけるう蝕罹患状態の肉眼的診査結果である。肉眼的診査結果は検出条件や検出基準などによってかなり影響をうけ，したがって，その結果の客観性に問題をのこすことが多い。

それだけでなく，複数回の検査結果を比較して，その推移の方向を判定しようとすると，技術的にその不確実性はさらに問題となる。

こういうことを防ぐために，簡易口腔内写真撮影によって得た資料により，幼児の歯科保健管理の体系を考えようとした。

このため，神奈川県三浦市の5つの幼稚園および保育所の3～5才の幼児560名について，普通

のカメラ（アサヒペンタックスＳＰ型）に１００㎜マクロタクマー，リングフラッシューを装着し，上顎咬合両方向，咬合状態において前歯部正面方向，および，下顎咬合面方向の３枚の写真撮影を行って，それと肉眼診査で得られた結果とを比較した。

上，下咬合面方向についてはワイドミラーを用いた。

この撮影フィルムと，同時に行った肉眼的検診結果との一致性はＣ１° 程度のものでは８３％，健全歯については９８％であり，十分有用であることがわかった。

また，撮影技術の巧拙はあまり結果に大きな影響を与えないようであった。

こうした方法を基礎として，次図のような管理システムが当えられ，こうした体系の下では歯科衛生士の導入により能率のよい管理を行うことができることが示唆された。

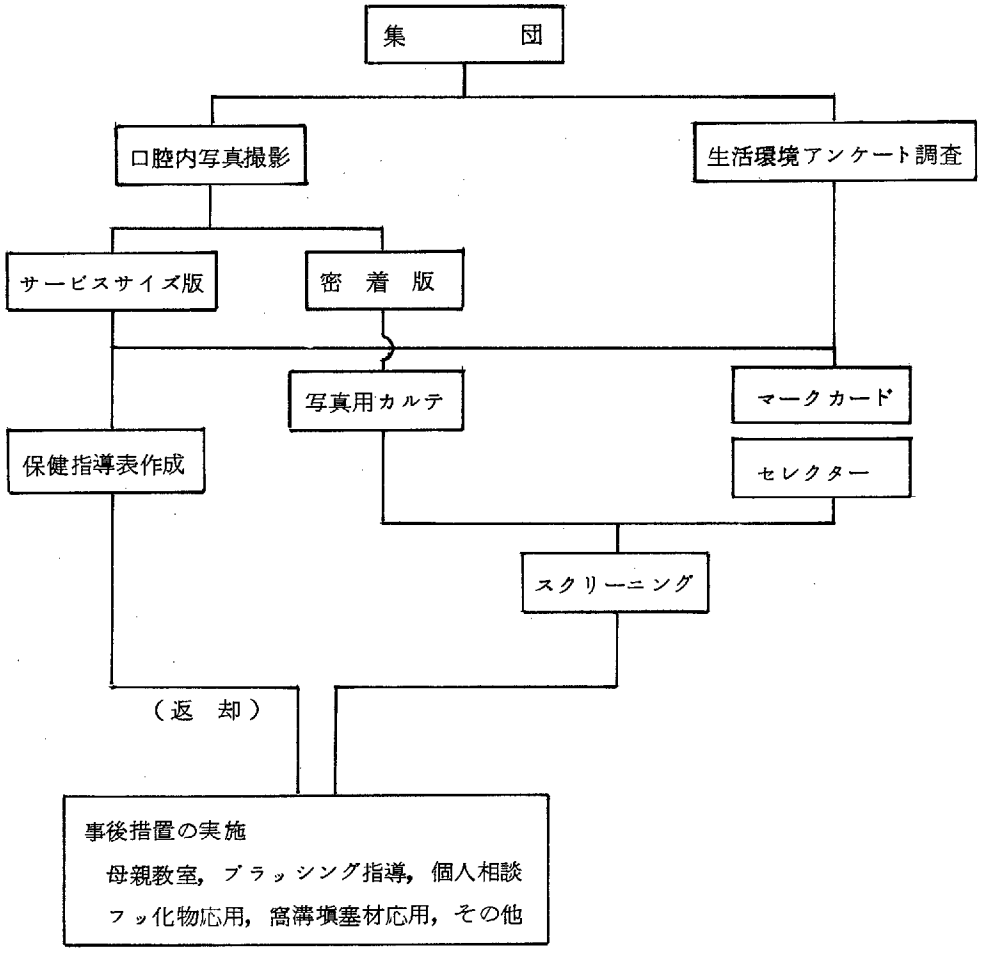


図１　口腔内写真法による，歯科健康管理システム（矢崎）

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

幼児に限らず,歯科保健管理,とくにう蝕についての管理体系を整備することは大切なことであるが,それには,検診時点におけるう蝕罹患性の予測をある程度の確度で行えることは大変役立つものである。

このため,1 才 6 カ月児歯科検診においては,歯垢付着状態と保育環境との 2 点からそれを推定しようとしている。